

JAPANTEX'98

未来を担う若い世代への期待
—Japantex'98学生作品展によせて—



テキスタイル産業の未来を考えると、若い世代の興隆がどれ程大切なことか誰もが認識している。日本テキスタイルデザイン協会設立の目的のひとつにもそれが挙げられている。日本の繊維産業を支える大きな場のひとつになっているNIF主催のJapantexの実行に於てそのことが同様に問題提起されていたことは、大変嬉しいことであった。早速両者の協力態勢が討議された。幸いTDA会員には美術系大学で教鞭をとっているデザイナーやアーティストが多く参加している。NIFとTDAとの連携によってJapantexの前向きなイベントのひとつとして、学生作品展が企画され実現した。今回は東京の4大学〈女子美術大学（女子美術短期大学を含む）、武蔵野美術大学、東京造形大学、多摩美術大学、アルファベット順〉に加えて大阪芸術大学の5校より各々10点づつのプリントワークが参加することになった。特別なコンペ形式はとらず日常のカリキュラムの中で行われる課題実習の仕事の中から選ばれたものであった。基礎的なパターンやプリント技法の演習でビジネスやマーケットニーズとは直接かかわらぬ仕事であり業界から批判を受けるのではないかと案じていたが、危惧に反してその初々しい自由さがかえって新鮮に感じられたのか思わぬ好評を受け、担当側としてはひと安心した。初めての試みでありTDAの担当委員会としてもいろいろの戸惑いや反省点もあるがまずはラッキーなスタートといえよう。学生達も参加と見学を通して学校では得られぬ産業の現場にふれ、多くのことを学んだと思う。産官学共同の教育理念が真剣に語られる今日、ひとつのステップを踏むことができたのではないかとNIFに感謝している。このような企画は是非続けて欲しいという声を多く耳にしたが、若い感性がこの混迷する日本の産業界に新しい風を興してくれることを期待しているのだと思う。
(わたなべひろこ)

